



2018年2月 第16巻第2号

かく語りき—聖人の言葉

「師のもとに避難すれば、全てを得られます。放棄こそが師の素晴らしさです。私たちが師の御名を唱えて、食べ、楽しむことができるのも、師が全てを放棄されたからです」

…ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー

「ハートの中に師の御足を思い浮かべよ。常に師を思い浮かべることで、幻惑の大海を渡ることができる」

…グル・ナーナク

今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- 2018年3月～4月の予定
- 2018年1月の逗子例会
第155回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会を開催
- 2018年1月の逗子例会

第155回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会

午後のプログラム

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージ」

スワミー・メダサーナンダによる講話

- 2017年クリスマス・イブ礼拝スピーチ

「イエス・キリストとシュリー・ラーマクリシュナの素晴らしい相似点」

レオナルド・アルバレスさん

- 忘れられない物語
- 今月の思想

3～4月の予定

- 生誕日

シュリー・ゴウランガ・マハプラブ
(チャイタニヤ) 3月1日(木)

スワミー・ヨーガーナンダ

3月5日(月)

ラーマナヴァミ 3月25日(日)

- 3月の協会の行事

3月3日(土) 10:00~12:00
東京・インド大使館例会
講義:『バガヴァッド・ギーター』
場所:インド大使館 03-3262-2391
お問い合わせ

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/
せ/

※入館・受講するには、大使館発行のIDカードが必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

※免許証など写真つきの身分証を必ずお持ちください。

3月13日(火) 14:00~15:30
火曜勉強会(賛歌と『ラーマクリシュナの福音』の勉強会)

場所:逗子本部本館
お申し込み・お問い合わせ
benkyo.nvk@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」の一番下の方をご覧ください。

※どなたでも参加できますが、前日までに上記の宛先にメールで予約が必要です。

また、当日キャンセルになることもありますので、当日朝に協会ウェブサイトで必ずご確認ください。

3月18日(日) 10:30~19:30
シュリー・ラーマクリシュナ
生誕祝賀会
場所:逗子本部別館

06:00 マンガラ・アラティ、朗誦、賛歌
10:30 礼拝(プージャ)、アーラティ、花奉獻(プシュパンジャリ)
13:00 昼食(プラサード)
14:45 輪読、講話、賛歌、瞑想
15:45 特別音楽プログラム
16:30 お茶
18:00 夕拝、賛歌

3月23日(金)
ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動
現地でのお食事配布など。
お問い合わせ:佐藤 090-6544-9304

3月24日(土) 13:30~17:00
関西地区講話
場所:大阪研修センター
内容:『バガヴァッド・ギーター』と『ウパニシャド』を学ぶ
詳細は <http://vedanta.main.jp/> をご覧ください。

3月 毎土曜日 10:15~11:45
ハタ・ヨーガ・クラス
場所:逗子本部別館
お問い合わせ:羽成淳(はなり すなお)
080-6702-2308

体験レッスンもできます。
予定は変更されることもありますので、日程は直接お問い合わせください。
専用ウェブサイトをご覧ください。
<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

・4月の協会の行事

4月1日（日） 14:00～16:00

新開設 逗子午後例会

場所：逗子本部本館

お問い合わせ & お申込み：

benkyo.nvk@gmail.com

詳細は協会ウェブサイトをご覧ください。

4月7日（土） 10:00～12:00

東京・インド大使館例会

講義：『バガヴァッド・ギター』

場所：インド大使館 03-3262-2391

お問い合わせ

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/

※入館・受講するには、大使館発行のIDカードが必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

※免許証など写真つきの身分証を必ずお持ちください。

4月10日（火） 14:00～15:30

（毎月第2火曜の予定）

火曜勉強会（賛歌と『ラーマクリシュナの福音』の勉強会）

場所：逗子本部本館

お申し込み・お問い合わせ

benkyo.nvk@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」の一番下の方をご覧ください。

※どなたでも参加できますが、前日までに上記の宛先にメールで予約が必要です。

また、当日キャンセルになることもありますので、当日朝に協会ウェブサイトで必ずご確認ください。

4月15日（日） 10:30～16:30

逗子例会

場所：逗子本部本館

午前：講話

午後：朗誦・輪読・講話

4月21日（土） 10:00～12:00

『ウパニシャド』スタディークラス

講義：ウパニシャド

場所：インド大使館 03-3262-2391

お問い合わせ：

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/

※入館・受講するには、大使館発行のIDカードが必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

※免許証など写真つきの身分証を必ずお持ちください。

※事前テキストを、協会ウェブサイトの「テキストギャラリー」－「ウパニシャド」からダウンロードして（必要に応じて印刷）、当日お持ちください。

4月27日（金）

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活

動

現地でのお食事配布など

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

4月27日（金）～29日（日）

サットサンガ in 大分

お問い合わせ：0972-62-2338 じねん

4月30日（月・祝） 5：00～20：00

アカンダ・ジャパム

場所：逗子本部本館シュライン

朝5時から夜8時までの間、瞑想とジャパ（神様の名前を心の中で唱え続けること）を切れ目なしに一日行う瞑想会です。宿泊や食事を提供します。

お問い合わせ：

vedanta.karmayoga@gmail.com まで

4月20日までにご希望の時間帯（1時間単位で何時間でも）をご連絡下さい

4月 毎土曜日 10：15～11：45

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子本部別館

お問い合わせ：羽成淳（はなり すなお）

080-6702-2308

体験レッスンもできます。

予定は変更されることもありますので、

日程は直接お問い合わせください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

2018年1月の逗子例会

**第155回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
生誕祝賀会を開催**

1月21日（日）、日本ヴェーダーンタ協会は1月の逗子例会で第155回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミージー）生誕祝賀会を執り行いました。

午前6時、厳しい寒さの中、マンガラ・アーラティ（朝拝）が行われました。朝食の後、前泊または早朝に参集したボランティアの方々が本館と別館に分かれて祝賀会の準備を進めていきました。本館では祭壇に供える食物と花の供物が用意され、別館ではプージャー（礼拝）の儀式台の組み立て、プージャー用の道具の配置、来客者用のイスとマイクやビデオカメラなどのAV機器の設置が行われました。





午前10時45分、スワミー・メーダサーナンダジー（マハーラージ）がプージャーを開始しました。まず儀式台の上でマントラ（サンスクリットの聖語、真言）を唱えながら供物を捧げました。次にマハーラージは台から降りてアーラティ（灯明を回しながら行う礼拝）を行いました。参加者がシンセサイザー伴奏に合わせて賛歌「カーンダナ・バーヴァ・バーンダナ」を歌う中、マハーラージは祭壇の前でベルを鳴らしながら地球の5大構成要素（エーテル・空気・火・水・土）を象徴する祭具（炎・牡牛の尾でできた扇・織物など）を奉獻しました。続いて、マハーラージと参加者で2曲目の賛歌「サルヴァ・マンガラー・マンガーレー」を斉唱しました。

次のプシュパンジャリ（花の奉獻）では、まず参加者全員に花のつぼみと葉が配られました。そして皆が祭壇の近くに寄り、マハーラージの先導でスワミー・メーダサーナンダジーに捧げるプシュパンジャリのマントラを唱和した後、数人ずつ祭壇に花を奉獻し礼拝しました。これで

午前のプログラムが終了し、皆本館に移動して昼食をいただきました。



午後のプログラムは、2時45分から再び別館で行われました。聖句詠唱、黙想、スワミー・メーダサーナンダジーの言葉をまとめた『立ち上がれ、目覚めよ』の輪読の後、マハーラージが「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミー・メーダサーナンダジー）のメッセージ」をテーマに講話を行いました。スワミー・メーダサーナンダジーの実際の経験を織り交ぜながら、「獣（問題・困難の象徴）に立ち向かえ」「やめるな、あきらめるな」「他者のことを自分のことのように考えよ」という三つのメッセージについて話しました。通訳は横田さつきさんでした。

続いて、隅埜由美さんと新田ゆう子さんが、シャンティ泉田さんのシンセサイザー伴奏に合わせて賛歌を歌いました。そしてマハーラージの先導で、スワミー・メーダサーナンダジーが作ったシヴァ神の賛歌を皆で歌いました。最後にマントラ詠唱、数分間の瞑想を行いました。その

後、本館に移動して茶菓をいただきました。この日の参加者は約45名でした。



今回もたくさんのボランティアの方々に、前日までの準備、当日の進行、後片付けなど様々な事をお手伝いいただきました。心より御礼申し上げます。

2018年1月の返子例会

第155回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会 午後のプログラム

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージ」

スワミー・メーダサーナンダによる講話

インドでは、宗教に関わる祝日はインドの太陰暦に記載されていますが、その日にちは年によって変わります。この太陰暦では、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミージー）の今年の誕生日は1月8日です。一方、グレゴリオ暦（太陽暦）では毎年日にちが同じで、スワミージーの誕生日は1月12日になっています。インド政府は、1月12日を「青年の日（Youth Day）」

と決めました。日本の祝日のほとんどは、成人の日、敬老の日、天皇誕生日など宗教的な要素が除かれたものになっていますね。インドでは、ヒンドゥ教、イスラム教、ジャイナ教、シーク教、仏教など人々の信仰する宗教は様々で、自分の宗教以外には神経を尖らせる人も多いですから、青年の日のような祝日は特別と言えます。スワミージーはヒンドゥ教の僧侶でしたが、スワミージーの誕生日が青年の日として定められることに反対する宗教のグループはいませんでした。

普遍的で力強くエネルギーに満ちあふれたメッセージを発したスワミージーは、若者のヒーローと見なされています。信仰する宗教や属する社会・集団に関係なく、スワミージーは全ての若者にとってインスピレーションの源だと考えられています。これはインドの若者だけでなく、全世界の若者にとってです。今日ここにいる皆さんの中には、自分達は若くないのになぜスワミージーの誕生日を祝うのかと思う人がいるかもしれません（笑い）。スワミージーのメッセージは全ての人に向けられたものであり、誰もがインスピレーションと導きを得ることができるのです。

先ほど、スワミージーの言葉をいくつか皆で読みましたね。「弱さの治療薬とは、弱さについて考えることではな

く、強さについて考えることだ」「たとえ君たちが数百万もの神々を信仰したとしても、君たち自身への信仰を持たぬなら君たちにとって救いはない」自分への信仰を持たない人は、スポーツをして強くなった方が良いでしょう。健康で心も体も強くなれば、『バガヴァッド・ギーター』や『ウパニシャド』の哲学がよく理解できます。次の言葉は革命的な考え方です。「古い宗教は神を信じない者を無神論者と呼ぶ。新しい宗教は自分を信じない者を無神論者と言う」普通のお坊さんや聖職者で、このような考えをはっきりと言う人はいないでしょう。イエス・キリストの福音（救いの教え）やシュリー・ラーマクリシュナの福音がありますが、スワミーの福音は「強さ」の教えです。

今日は、スワミーの生涯で実際に起きた出来事のいくつかに触れ、その重要性についてお話ししたいと思います。これはよく知られている話なので既に知っている人も多いかと思いますが、今日のような機会にその重要性について考えてみるのは良いことでしょう。最初の話は、スワミーがニューヨークで講話を行ったときに取り上げたもので、「獣に立ち向かえ」と呼ばれている話です。シュリー・ラーマクリシュナが亡くなられた後、直弟子の多くは遍歴僧としてあちこちを旅していましたが、これはその時の出来

事です。スワミーがインドの有名な聖地ヴァーラーナシーの道を歩いていたとき、ドゥルガー寺院 (Temple of Durga Mandir) を通りかかりました。このお寺は、たくさんの猿が住み着く「サル寺」として知られていました。通り過ぎようとするスワミーを、突然、猿の一群が追いかけ始めました。体が大きく凶暴そうな猿も何匹かいたので、スワミーはびっくりして走り出しました。しかし、猿たちは追いかけてきます。突然どこからか声が聞こえてきました。「逃げては駄目だ。走っても逃げ切れないよ。獣に立ち向かえ！」これはその場にいた年配のお坊さんが言った言葉でした。スワミーは、この言葉を聞くと振り返って猿たちに向き合いました。すると猿の一群は逆に逃げていきました。

人は本来、問題を避けたり問題から逃げたりする傾向があります。私たちの心も体も楽な方へと向かいがちで、大変なことや困難を避けようとしています。流れる水は、その流れを妨げるものがあると、方向を変えますね。人生では、問題をただ避けようとしても問題はなくなり、かえって大きくなります。ですから、問題がまだ小さいうちにその芽を摘み取った方がいいのです。問題が大きくならないうちに立ち向かい、解決するのです。これには良い面があります。困難な状況に向き合い解決しようとすることで私たちは強くなりま

す。

スワームジーは、「私たちの中に無限の力がある」と繰り返し言われました。人生の困難に見舞われた時こそ、この無限の力を現す良い機会です。問題にぶつかり、解決するために力を出さねばなりません。そうすることで、内なる力が現れるのです。成長したい、もっと強くなりたいと思うなら、困難を歓迎すべきでしょう。問題を避けず、問題から逃げず、喜んで受け入れるのです。困難に立ち向かうことなく偉大な人物になったという人はいるでしょうか。大きな人間になればなるほど、大きな壁にぶつかります。何の問題もなく快適な状況に置かれているとどうなるでしょうか。たとえば、「親の甘い子は子に毒薬」という言葉があります。子供を甘やかして大事にしすぎると、人として成長する機会がなくなり、かえって子供のためにならない、という意味ですね。

何か問題が生じた時、解決しようとせず放っておくと、状況が悪化して解決がますます難しくなる可能性があります。また、問題を解決しようとすることで内なる力を現すことができ、自分が大きな力を持っていることに気付いて自信がつきます。「獣に立ち向かえ」というスワームジーの言葉には、こうした考えが込められているのです。

次の話は、ヒマラヤ山中を歩いていた時の事です。山道を歩くには足腰と肺の強さが必要ですね。ケダルナート、バトリナート、ガンゴトリー、ヤムノートリーなど、インドの巡礼地の多くはヒマラヤ山中にあります。今ではこうした場所にバスで行くことができますから少し楽になりましたが、以前は自分の足で歩いて行かなければなりませんでした。私自身、雪の中、ケダルナートまで片道 8Km を歩いて往復した経験があります。

さて、スワームジーがヒマラヤ山中を巡礼していた時のことです。インド各地から来たあらゆる年齢の人たちが巡礼地を巡っていました。あるおじいさんが山道をかなり上まで登ってきたところで、へトへトになって息を切らしていました。おじいさんは諦めかけて「もういい、もうやめだ」と大声で言いました。するとスワームジーはおじいさんに近づいて、登ってきた道を振り返りながら言いました。「おじいさん、こんなにたくさん歩いてきたのですよ。ここまで頑張って登ってきたのはおじいさんではないですか。あともう少し登るだけですよ。なぜ今やめてしまうのですか」これが二つ目の言葉です。「諦めるな、やめるな」です。

自分のこれまでの人生を振り返ってみると、途中でやめてしまったことがたくさんありますね。歌手の歌を聞いて

て、自分も歌を習おうと思います。ボイストレーニングを受けて歌を習いますが、やめてしまいます。誰かがピアノを上手に弾くのを見て、自分もピアノを習いはじめますが、そのうちやめてしまいます。日本では学校で英語の授業がありますが、英語で会話するにはそれで十分でなく、英会話のスクールに通ったり通信教育を受けたりします。が、やはりやめてしまいます。ヨーガが体にいいと分かると、「流行っているし周りでもやっている人がいるから」とヨーガを始めます。しかし、そのうちやめてしまいます。「瞑想っていいなあ。ヴェーダーンタ協会のお坊さんも、瞑想は心と体にとっても良いと言っている。集中力も高まるから仕事にもいいだろう」と思い、瞑想を始めます。が、やはりやめてしまいます。こんなふうに、何かを始めてはやめる、の繰り返しではないでしょうか。スワームージーは「諦めるな、やめるな」とアドバイスしています。偉人の生涯を見ると、一旦始めたことは最後までやり抜いています。私たちのように途中で諦めてやめたりしません。

何かを始めてやめてしまっても、何かしら良いことを続けたことになります。途中でやめてばかりいると、せっかく積み上げてきた良いことも無くなってしまう可能性があります。良い習慣を一つ一つなくしてしまうのです。瞑想、ヨーガ、外国語の勉強、早起き、聖典

を読むなどの習慣が一つずつ無くなっていきます。スワームージーの言葉をいつも思い出して下さい。「獣に立ち向かえ」「諦めるな、やめるな」

西洋から帰国した時、スワームージーは有名人になっていました。年齢や社会の階層にかかわらず、スワームージーを一目見たい、スワームージーの話を聞きたいという人がたくさんいました。ある青年がスワームージーに会いに来て、これまでにいろいろな所に行って、信仰心のある人たちにたくさん会ったと言い、さらにこう言いました。「部屋のドアを閉め、目を閉じて瞑想しましたが、まだ真理が分からないのです」そして、平安を見出すことができないと言い、青年はスワームージーに懇願しました。「どうか私に道を示して下さい」

スワームージーは答えました。「友よ、これまでやってきたことと正反対のことをするんだ。ドアを開けて、目を開き、自分の周りをよく見なさい。君の助けを待っている人々がどんなにたくさんいることか。苦しんでいる人がどれほどたくさんいるか。行って彼らに仕えなさい。そうしたら必ず平安が得られるだろう」

お坊さんからこのような助言をもらうとは意外ではありませんか。普通、お坊さんは「努力が足りない」とか「も

っと頑張りなさい」とか言うでしょう。瞑想で平安が得られないのではありません。実は、「自分は瞑想している」と思っていることが問題なのです。私達は瞑想の準備が十分にできておらず、瞑想のために座っていてもただ居眠りしやすくなっているだけです。また、瞑想が、予定についてあれこれ考える時間になっているのです。居眠りする。スケジュールを考える。この二つは、瞑想の時に最もよくやることです。これは、ちゃんと瞑想する準備ができていないためで、パタンジャリがギヤーナの前にいくつもの段階を踏むことを勧めたのはこのような理由があるからです。ヤマ、ニヤマ、アーサナ、プラナーヤーマ、プラティヤーハーラ、ダーラナー、ダーラナーの段階を経て、その次にディヤーナ、すなわち瞑想が来ます。このように、肉体、感覚、心の訓練が数多くあるのです。

このやり方では、長時間瞑想を実践する求道者がうぬぼれて利己的になることがあります。自分は人より優れていると考え、他の人はどうでも良い、関係ないと考えるようになります。こうなると心の平安を得るのは大変難しくなります。だからスワミーは、他者を助けに行きなさいと勧めたのです。他人をお世話することで、私たちは非利己的になってうぬぼれがなくなり、心の平安を得ることができます。

この点について私が考えていることなのですが、自分の家族のことだけしか頭にない人がたくさんいます。家族以外のことには一切関わらず、考えも行動も家族が中心、家族だけです。もちろんこれには目的や理由があります。こうすることで幸せになれると考えているのです。でも本当にそうでしょうか。家族のことだけを考えると、家族への執着が非常に強くなります。執着すればするほど、苦しんだり不満を感じたりする可能性が高くなります。

一方で、家族の世話をしながら、他の人の手助けをする人もいます。これにはいろいろなやり方があります。時間を見つけて NGO のボランティア活動をする、教会やお寺、ヴェーダーンタ協会のような団体の手伝いをする、などです。仕事や家族の世話をしながらこのようなボランティア活動をするのはもちろん大変ですが、結果として得られるものに目を向ける必要があります。例えば、ヴェーダーンタ協会の活動を手伝ってくれる方たちは、以前はどれほどの平安を得られていたのでしょうか。以前と今の心の平安のレベル、幸福のレベルを比べれば、人生が変化しているのが分かるでしょう。

自分の家族のことだけに目を向けるのは、井戸の中に暮らすカエルのような生き方かもしれません。しかし、さまざまな「お世話」を通して他人のこ

とを自分のことのように考えるとき、私たちは大海に暮らす魚のような生き方になるのです。

今日は、スワージーの生涯に起きた事柄から三つの事をお話ししました。「獣に立ち向かう」「諦めない、やめない」「人のことを自分のことのように考え、人のお世話をし非利己的になる」です。協会を出た後も、この三つを常に心の中にこだませ、忘れずにいましょう。



2017年クリスマス・イブ礼拝 スピーチ

「イエス・キリストとシュリー・ラーマクリシュナの素晴らしい相似点」 レオナルド・アルバレスさん

私はカトリック教徒でイエス様を信仰し帰依していますが、この日本ヴェーダーンタ協会に住んでいます。私は長い間いろいろな宗教に興味を持っており、インド哲学やヨーガ、瞑想にも興味がありました。霊的な修行をする

場所を長い間探していましたが、カトリック教会には私のように聖職者でない者が中に入って生活するところはありません。そしてここにたどり着きました。マハーラージは親切にも私をここに住まわせて下さいました。

私は特定の宗教が他の宗教より優れているとは思いません。が、自分たちの教えだけが正しい、と説く宗教が多く、その考え方に賛成できませんでした。ですから、シュリー・ラーマクリシュナの教えを知った時に感動しました。シュリー・ラーマクリシュナは「全ての宗教は真実である」と語っていますが、これは自身が経験したこととして知っているのであり、本などを読んで学んだわけではありません。シュリー・ラーマクリシュナは、ヒンドウ教のさまざまな宗派の修行を経て最高の悟りを得た後、キリスト教とイスラム教の修行をして同じ悟りを経験しました。身をもって経験したことなので、私はこれに大変共鳴しました。

受胎

ではこれから、シュリー・ラーマクリシュナとイエス様の生涯についてお話ししたいと思います。まず誕生についてです。神の化身の誕生は、さまざまな神秘的な出来事を伴います。たとえば、イエス様の母マリア様のもとに、ある日、天使ガブリエルが現れ、「あな

たは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい」(マタイによる福音書 1 章 31 節。『和英対照聖書新共同訳』日本聖書協会、2001 年)と告げます。イエスとは「神が救う」という意味です。マリア様はヨセフと婚約していましたがまだ結婚していなかったので「どうして、そのようなことがありえましようか。私は男の人を知りませんのに」(同 1 章 34 節)と言います。すると天使は「精霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む」(同 1 章 35 節)と答えます。

シュリー・ラーマクリシュナの場合も似たようなことが起こります。母チャンドラマニがカマルプクルのシヴァ聖堂に行くと、シヴァ・リングムから光が出てきて体内に入りました。チャンドラマニは気絶しましたが、この時から自分は妊娠していると感じるようになりました。その他にも夢でビジョンを得るなどし、自分が神の子を産むことを知りました。

イエス様の父親もシュリー・ラーマクリシュナの父親もそれぞれに啓示を受けて、自分の妻が神の子を宿していることを知ります。

幼少時代

イエス様もシュリー・ラーマクリシュナも子供の頃から、普通の人とは違っ

ていました。普通の人よりも知恵があり、たくさんのビジョンを見ていました。

イエス様は 30 歳の頃から教え始めました。13 歳から 30 歳までのことについてはあまり記録がありませんが、修行していたと考えられています。シュリー・ラーマクリシュナも若い頃から人々に教えていたわけではなく、たくさん修行した後に人前で教えるようになりました。

二人とも伝統にのっとりやり方で聖典を勉強したわけではなく、色々な形で修行しながら学んでいました。普通の人よりも知恵を持って教えていました。

イエス様とシュリー・ラーマクリシュナの最も重要な教えは「放棄」です。二人とも、欲望や自己中心的な態度、お金への執着、家族への執着に対して厳しく戒めて教えていました。時にはとても強い口調で教えていたので、言われた人々は傷つくこともありました。二人はそれを気にすることはありませんでした。二人は真理を中心に説いていました。真理を聞くと、人は自由な心の境地に達することができます。

ある時、イエス様が洞窟で教えていた時、イエス様を呼びに人がやって来て、外で母と兄弟たちが待っていると言い

ました。

「しかし、イエスはその人にお答えになった。『わたしの母とはだれか。わたしの兄弟とはだれか。』

そして、弟子たちの方を指さして言われた。『見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。』

だれでも、わたしの天の父の御心（みこころ）を行う人が、わたしの兄妹、姉妹、また母である。』（マタイによる福音書 12 章 48 節～50 節）

つまり、家族とは「血でつながっている人よりも、霊的につながっている人」という、新しい家族の概念を提示しました。

シュリー・ラーマクリシュナの弟子たちも愛を体験しました。後に出家した直弟子たちは、家で母親にこう言いました。「お母さんの私に対する愛は、シュリー・ラーマクリシュナの愛ほど強くありません」母親はこれを聞くと驚いて、「なんということを言うの。私ほどお前を愛している人はいないでしょう」と言って怒りましたが、弟子たちは否定しました。この理由は、神様の愛は永遠ですが、母親の愛には執着や束縛が含まれています。ある意味では、母の愛も神様の愛の現れですが、そこには限界があります。無限と有限を比

べることはできません。

イエス様の話に戻りますが、このようなこともありました。あるお金持ちの若者がイエス様に言いました。

『先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。』

イエスは言われた。『なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。』

男が『どの掟ですか』と尋ねると、イエスは言われた。『「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、

父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』

そこで、この青年は言った。『そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。』

イエスは言われた。『もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。』

青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持って

いたからである。」(マタイによる福音書 19 章 16 節～22 節)

イエス様は続けて言いました。

「イエスは弟子たちに言われた。『はっきり言っておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。』」

重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。』」(同 19 章 23 節～24 節)

ここで言う「金持ち」とは「富に信頼を置く者」のことです。お金持ちであることは問題ないのですが、欲張ってお金を独り占めしようとすることは神様を忘れることになります。

放棄

もう一つの教えは肉欲の放棄です。イエス様の有名な教えの一つに、「結婚できないように生まれついた者、人から結婚できないようにされた者もいるが、天の国のために結婚しない者もいる。これを受け入れることのできる人は受け入れなさい。」(マタイによる福音書 19 章 12 節) というのがあります。天の国のために肉欲の楽しみを全て放棄できる人だけが放棄しなさい、そうでない人は徐々に放棄しなさい、というのがイエス様の言いたかったことだと思います。

「放棄の化身」であったシュリー・ラーマクリシュナは、お金を完全に放棄していました。「ここに土の塊とお金がある。お金は土の塊で、土の塊はお金だ」と識別して両方をガンジス川に捨て、それ以来お金に触ることができなくなりました。触ると手に猛烈な痛みを感じたそうです。

ある時スワミージー (スワミー・ヴィヴェーカーナンダ) が、自分のグルであるシュリー・ラーマクリシュナを試したことがありました。シュリー・ラーマクリシュナの枕の下に内緒で硬貨を隠したのです。シュリー・ラーマクリシュナが昼寝をしようとして枕に頭を置くと、突然頭に痛みを感じ、ベッドから飛び起きました。枕をどけてみると、その下には硬貨がありました。その様子を見たナレーンドラ (出家前のスワミージーの名前) は、グルの言葉が口先だけではなくて本当であることを確信しました。

また、シュリー・ラーマクリシュナの肉欲の放棄の例をお話しします。シュリー・ラーマクリシュナを経済的に支えたマトウル・バブーという人がいました。彼はシュリー・ラーマクリシュナを試そうと、コルカタで売春婦がたくさんいる所に連れて行きました。何も知らずについて行ったシュリー・ラーマクリシュナは、階段の上からマトウルに「さあ、こちらです」と呼ばれ、

上って行きました。上にはたくさん
の売春婦がいたのですが、彼女たちが目
に入った途端、「おお、マー（母）よ、
マーよ」と言いながらサマーディに入
りました。このように、シュリー・ラ
ーマクリシュナは完全に肉欲がありま
せんでした。

罪人（つみびと）の救い

もうひとつ大切なポイントは罪人の
救いです。イエス様が生きていた時代
には、ユダヤ教の決まりに、罪人は汚
れた者だから近寄ってはいけないとい
うのがありました。預言者や聖者など
は聖なる者同士で集団を作り、汚れた
者は汚れた者同士で集団を作っていま
した。しかしイエス様はそのような決
まりを無視して、汚れた者たちと食事
を共にしたり話をしたりしました。す
るとファリサイ派の人たちは、「なぜあ
なたたちの先生は罪人たちと一緒にい
るのか」と言いました。これに対して
イエス様はこう答えました。

「医者が必要とするのは、丈夫な人では
なく病人である。わたしが来たのは、
正しい人を招くためではなく、罪人を
招くためである。」（マルコによる福音
書 2 章 17 節）

同じように、シュリー・ラーマクリシ
ュナも罪人を招くために現れたと言っ
てもいいと思います。たとえば、シュ

リー・ラーマクリシュナと出会って大
きく変わった一人として、有名な信者
ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュがい
ます。お酒を飲むことが大好きで、売
春宿にもしばしば通いました。自ら「世
の中で私が犯していない罪はない」と
いう程罪深い人でしたが、シュリー・
ラーマクリシュナの恩寵で性格が大き
く変わりました。シュリー・ラーマク
リシュナは、「どれほどの罪人でも、神
様への愛さえあれば希望や救いがある
」と言いました。また、人はエゴ（自
我、うぬぼれ）を取り除く必要もあり
ます。エゴがあるかぎり神様を悟るこ
とはできません。

シュリー・ラーマクリシュナは、時
には会話を交わすことなく、罪人とい
われる人たちの霊的意識を目覚めさせ
ることができました。シュリー・ラマ
クリシュナと一瞬視線を合わせるだけ
で、人は恍惚状態に入ったり、涙を流
したり、体が震えたりすることもあり
ました。そしてその後、神様の恩寵で
大きく変わって聖者になったのです。
このように、誰にでもチャンスがあり
ます。これがシュリー・ラーマクリシ
ュナの大切なメッセージです。

私が最も大切だと思っている点は、神
の化身が、希望がない、救いがないと
思われている人たちを救うことができ
るということです。シュリー・ラマ
クリシュナの直弟子の何人かが、「悟っ

た人を神様が救うのはあまり大したことではないが、罪人を救うことや聖者に変えられることにこそ神様の慈悲と力が働いているのだ」と言っていました。まさにその通りだと思います。



忘れられない物語

ジリスの筋模様

昔々、古代インドで、復讐心に燃えたランカ王ラーヴァナがラーマの妻シーターをアヨーディヤ王国からさらった。これに対しラーマは、猿族の王ハヌマーンと共に、猿の大軍を率いてシーターの救出に向かった。

軍は南下して海に出た。ラーヴァナの王国に行くには海を渡らねばならなかった。ラーマは海を干上がらせようとしたが、海の王が姿を現して懇願した。「海の水がなくなれば、海に住むものたちは皆死んでしまいます。どうぞお慈悲を。代わりに橋をお作りください」

そこでラーマは猿たちに、全軍団が渡れるような丈夫な石の橋を作るように命じた。

猿たちはすぐに仕事に取り掛かり、大きな石を運び集めた。ラーマは大変喜んだが、ふと、口に小石を含んだ一匹の小さな茶色いリスが丘の方から海に向かって走ってくるのに気づいた。リスを目にした猿たちはイライラした様子で「どけ、邪魔だ」と怒りをあらわにした。「そんな小さい石では役に立たない。いらないよ」

「私も、シーター様を助けるために橋を作るお手伝いをしているのです。なんとかシーター様をお助けしなければ！」リスは懸命に言ったが、猿たちはリスをあざけて大笑いした。しかし、橋が崩れないようにするには、大きな石の間に小石を挟む必要があることに気づいた者もいた。

ラーマは大声で言った。「猿たちよ、決して、自分よりも力の弱い者を見くびったり、その行為を馬鹿にしたりしてはいけない。誰もがその強さや能力に応じて仕事を果たしている。一人ひとりが必要なのだ」

ラーマは、小さなリスを手のひらに乗せて抱き上げると、感謝の言葉を言いながらリスの背中を指でなで、リスの目から涙をぬぐった。その日から、全

てのジリスがラーマの感謝の印を体に
まとうようになった。背には筋の模様
を、目の周りには白い輪の模様をもつ
ようになったのだ。

(『ラーマヤナ』より)

今月の思想

「親切な行為は、どんなに小さいもの
でも、決して無駄にならない」

…イソップ

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp